

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立鳩ヶ谷高等学校)

目指す学校像	総合制高校として3学科の特色を生かすとともに、生徒一人一人が主体的に学ぶ力を育成する学校
--------	--

重点目標	1 カリキュラムや授業の工夫を図り、生徒の学習意欲を高め、確かな学力を育成する。 2 学校全体で、挨拶励行や身だしなみ指導などに取り組むことにより、生徒に自らを律する心を育み、基本的生活習慣の確立を図る。 3 3年間を見通した進路指導により、生徒に目的意識を持たせ、進路実現を図る。 4 開かれた学校づくりを推進することにより、保護者・地域の信頼に応える。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	12名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 2 3 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 教員が教え方や教材に工夫をしていると感じている生徒が74%程度、授業で達成感を感じた生徒が50%以上である。 【課題】 生徒に明確な目的意識を持たせ、自主学習の習慣を身に付けさせる必要がある。	○生徒の学習行動を強化させる。	①教員による授業改善のための校内授業公開週間を年2回開催する。 ②多様な学習ツール、各種検定等を活用し、主体的な学びを推進する。 ③学びの基礎診断の結果を活用し、自主学習時間を増加させる。	①全教員が年間をととして1回以上、他の教員の授業を参観する。 ①授業に対する満足度70%以上。 ②学習に意欲的に取り組めた生徒70%以上 ③自主学習が昨年度より増加した生徒の割合80%以上。	①校内公開授業において、平均1回以上他の教員の授業を見学した。授業に対する生徒の満足度は70%弱、保護者のそれは80%強であった。 ②約80%の生徒が授業に集中していると回答している。 ③2、3年生の半数以上が、普段授業以外の学習をしなかった。	B	■IT機器を用いた授業が浸透してきたが、更なる積極的活用が課題である。■ミックスホームルーム・特進クラスに対応するための学力向上対策も引き続き考えていく必要がある。■生徒の家庭学習時間の少なさが喫緊の課題であり、分掌、委員会、学年、学科等が連携して個々の生徒へきめ細やかな指導を計画したい。
2	【現状】 身だしなみやチャイム始業に取り組んだと感じている生徒は9割を超えている。登下校中の自転車事故が数件発生している。 【課題】 ルールやマナーの遵守を徹底させるとともに、教育相談体制の充実を図る。	○生徒の自尊心を育成する。	①年間を通じて毎日教員がチャイム始業の率先垂範を行う。 ②挨拶励行、身だしなみ指導を年3回学期の始めに実施する。 ③毎朝交通安全指導の取組として声掛けを行う。 ④毎月教育相談委員会を開催し、課題を抱える生徒の把握に努め、支援体制を充実させる。	①チャイム始業100%。 ②身だしなみに意識して授業を受ける生徒が増えたか。 ③交通事故が減少したか。 ④充実した学校生活だと思う生徒・保護者の割合が90%以上。	①②生徒アンケートで身だしなみやチャイム始業に取り組んでいると回答した生徒が約95%であった。 ③事故件数14件に増加したが、意識啓発により軽微な事案まで報告されるようになったと分析する。 ④学校生活に満足と回答した生徒が約80%、入学させて満足と回答した保護者が約90%であった。教育相談委員会を月例開催した。	A	■引き続き、身だしなみ指導と遅刻指導を行い生徒の自律心を育成するとともに、自己肯定感をはぐくむ。■安心、安全な登下校のためにも交通マナーとルールへの遵守を徹底させる。■生徒の「心の健康に対するケア」について、生徒の実態把握と適切な対応を組織的に進める。
3	【現状】 きめ細かであり早期からの進路指導により、進路決定者は9割を超え成果を上げている。 【課題】 授業の延長線上に進路決定があるという意識を生徒に持たせる。	○生徒に高い進路目標を掲げさせ、積極的に取り組ませる。	①適性検査、業者テスト、外部模試などを行い、自己の客観的なデータを示し、進路意識を向上させる。 ②進路ガイダンスや面接を通して、生徒に資格取得や高い進路目標を持たせる。 ③保護者の意識を啓発し保護者と連携した進路指導を行う。	①進路行事や模試等を予定どおり実施したか。 ②高い目標を持って学習に取り組む生徒が増えたか。 ③保護者の啓発を含めた進路指導の取組ができたか。	①各進路行事をすべて予定通り実施した。 ②12月時点で進路決定者が96%で、普通科における大学進学率が約43%と昨年度から3ポイント上昇した。 ③7月にPTA企画の保護者による上級学校見学を実施した。3年生の保護者の80%以上が本校の進路指導に満足と回答した。	A	■日々の学習を始めとする学校生活を充実させるような環境を作り、学校生活をきちんと送った結果が、進路選択を大きく左右するということを意識させる。■本校は進路多様校で進路先が多岐に渡るが、特進クラスを先頭に、生徒が高い進路目標を目指せるように指導する。
4	【現状】 学校説明会や授業公開を行い、学校の魅力を発信している。保護者、外部機関との連携も実施している。 【課題】 引き続き地域からの信頼維持に努める。HPをより親しみやすいものに改善する。	○家庭や地域に対して、学校の教育情報発信を充実させる。	①学校HPを見やすくするとともに内容の充実を図る。 ②メール配信システムを活用し、保護者通知文送付等を発信する。 ③地域の人材や施設等の活用を進める。	①学校HPに写真が増え、更新回数が増やせたか。 ②保護者、地域に情報を発信できたか。 ③外部の人材や組織、施設を活用したか。	①平均毎週1回以上HPを更新し学校行事での生徒の様子を紹介した。 ②HPや広報誌「伝書鳩」、学年通信などで学校の活動の紹介をした。延べ817名(12/12現在)の中学生が学校説明会等に参加した。 ③外部講師派遣制度を活用し国家資格検定の指導を依頼、近隣施設で部活や学科などの発表や作品展、行事への参加協力などした。	A	■引き続き、HP等の適宜更新を行い、広報活動を充実させる。■学校行事の見直しにより、外部機関の活用を図る。■PTA行事等も計画的にすすめ、より多くの保護者に参加していただけるよう工夫する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和2年2月7日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
■授業参観やアンケート等から、多くの生徒が授業に集中している様子が伺える。授業以外の学習時間を増やすためにも、普段の授業を充実させる必要がある。■プロジェクター等IT機器は生徒にとって、勉強に興味を持たせる効果が期待できるので、積極的な活用を工夫して欲しい。■ミックスホームルームや特進クラスなどの取組を、生徒が肯定的に捉え学習意欲につながっているようである。引き続き取り組んでいただきたい。	
■挨拶や身だしなみは社会に出るととても大切になってくるので、是非、高校生の中に身に付けさせていただきたい。身だしなみは、以前に比べてとても落ち着いてきていると感じる。■遅刻が少ないことはよいが、時間ギリギリの登校では事故の心配もある。今後は時間に余裕をもって行動することに取り組んで欲しい。■チャイム始業について、生徒の意識と実態に差はないか検証も必要である。■勉強と部活動の両立も、高校生年代には必要な取組である。部活の様子も本シートに入れるとよい。	
■早い段階から進路を意識させる行事を計画したり、担任が面接をしたりして将来を考える切っ掛けを与えていることは評価できる。■上級学校を見学に行かせたり、講師を呼んで模擬授業を受けさせたりすることで、生徒が進路を具体的に考えられていることが伺える。■3年生に対する面接指導が手厚いことに感心する。■進路のことで悩んだときに、相談しやすい環境を整えて欲しい。	
■学校に限らず事業所にとって、自分たちの活動を利用者や関係者によりよく理解していただくために広報活動は大変重要である。■遠方に住んでいると、学校の様子を知るにはHPが頼りである。今年は更新回数が増え充実してきた。他校のHPを参考に更なる改善を期待する。■学校からの通知文を生徒に配布したことを知らせる一斉メールは、保護者が大変助かっている様子が伺えるので、今後も継続して欲しい。	